様式３（2019.05改）

作成日　令和２年1月18日

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2393100199
事業所名	グループホームこころくばり

【重点項目への取組状況】

		評価
重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：２）	
	ボランティアを積極的に招いたり、隣りの中学生徒の吹奏披露や福祉体験の受入れ、抹茶会、福祉まつりへの遊山など、実践を通して理念『地域から必要とされる法人となる』の浸透が図られています。また町内会長がボランティアチームを立ち上げたことを機に4月から事業所での活動を始めたいとの話が進んでおり、開設2年目とは思えないほど地域交流が盛んです。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：３）	評価
	運営推進会議は、併設の地域密着型特別養護老人ホーム、看護小規模多機能型居宅介護と合同開催で実施されています。行政や家族のほか、福祉センターや中学校教頭、町内会長とメンバーを揃える中、「ご利用者様の入居時と現在の変化について」と題して、症状の向上プロセスを発表、その一方でエスケープの失敗例も伝え、事業所の現状を知ってもらえる機会としています。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：４）	評価
	安城市、地域包括支援センターには運営推進会議への出席が欠かさず得られ、有意義な情報、意見を届けてもらえています。また事業所においても、福祉センターからは『認知症』『ケアについて』の講座を依頼されたり、地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座には法人が会場を貸し出したうえで施設長が『声かけ訓練』を担当するなど、地域の福祉ニーズに応えた活動に取組んでいます。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：６）	評価
	事業所の設備は潤沢で、例えば整容室には2基の理美容専用椅子が配されています。ある時「今日は切りたくない」とこぼす利用者を見守っていた家族が、「私も（家族）やってもらうから」と促し、一緒にカットしてもらったとの例もあるほど、家族とは親しみある関係ができています。課題としていた毎月のお便りは近く実現させたいとしており、発行の暁には更なる親交が深まることが期待されています。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去１年間に６回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

１．外部評価軽減要件

①　別紙４の「１　自己評価及び外部評価」及び「２　目標達成計画」を市町村に提出していること。

②　運営推進会議が、過去１年間に６回以上開催されていること。

③　運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

④　別紙４の「１　自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の２、３、４、６の実践状況（外部評価）が適切であること。

２．外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	確認事項
２．事業所と地域のつきあい	（例示） ①　自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、 消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ②　地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
３．運営推進会議を活かした取り組み	（例示） ①　運営基準第８５条の規定どおりに運用されている。 ②　運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
４．市町村との連携	（例示） ①　運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ②　市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
６．運営に関する利用者、家族等意見の反映	（例示） ①　家族会を定期的（年２回以上）に開催している。 ②　利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③　家族向けのホーム便り等が定期的（年２回以上）に発行されている。

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
総合評価	―	―	―	―	―	―	―	―	―	×	○